

葛城市

平成30年

2018年7月

第7号



はじめるネット

討議資料



<https://www.hajimerunet.com>

◀バックナンバーはこちら▶

発行 吉村はじめと始める会



葛城市議会、 変わり始めました!

吉村 始

昭和43年1月1日、葛城市生まれ
新北小、新庄中、畝傍高、立命大卒
図書館司書(公務員)、出版社勤務
のち出版社を創業し代表取締役
昨年11月から葛城市議会議員

吉村はじめと始める会

〒639-2101 奈良県葛城市疋田379
電話&FAX 0745-69-7590

今号も「はじめるネット」をお読みいただき、ありがとうございます。これからも、よりよい紙面づくりに工夫を重ねてまいりますので、ご愛読のほどお願いいたします。

さて、6月に「平成30年第2回葛城市議会定例会」が開かれました。私にとっては3回目の議会でした。一般質問(次ページ)は、定例会ごとに1時間、議員に与えられた権利です。各議員は、自分でテーマを決めて質問します。私も前回の反省点をふまえて、傍聴やインターネットでご覧の皆様に論点などがよく伝わるよう、自分なりに工夫して臨みました。

一般質問を行う行わないは自由ですが、昨年初当選の新人議員は全員、今回も一般質問を行いました。前回(平成25年)選挙当選から、ほぼ毎回一般質問を行っておられるのは内野議員と増田議員のお二人で、会派としては共産党と公明党が欠かさず行っておられます。私も、この点を見習ってできるだけ多くの一般質問を行うのはもちろん、より内容と深みのある答弁を引き出せる議員を目指します。

ところで、今回から、以前私が取り組むことを皆様にお約束していた本会議のインターネット「録画中継」が実現しました! 一般質問も、動画でぜひご覧ください(動画配信は8月末頃までの予定)。

葛城市議会映像配信

<http://www.katsuragi-city.stream.jfit.co.jp>



★本紙は、家族とご支援くださる方のご協力を得て手配りしています。
最新号やバックナンバーはウェブ版でご覧いただけます。

6月議会、吉村始の一般質問は4本立て!

今回は、次の内容について具体的な時期や数字を尋ね、市に要望を伝えました。質問は五つ用意しましたが、時間の都合で四つになりました。

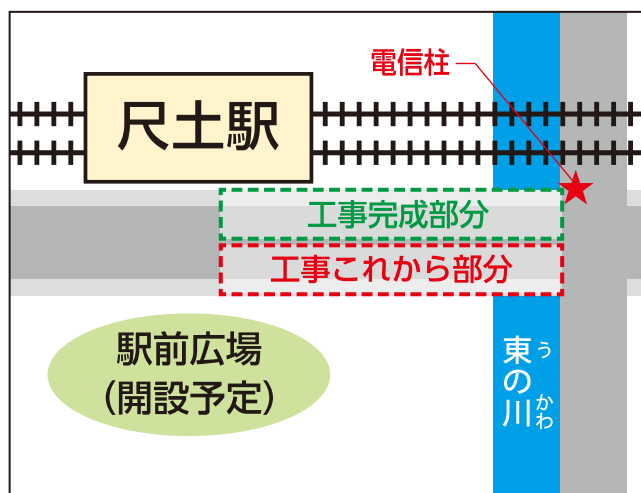


- ① 尺土駅前整備事業の進捗状況と今後の見通しについて
- ② 道の駅の市民目線での活用について
- ③ あらたな市政モニター制度の設置について
- ④ 市内の消火栓の点検について
- ⑤ 公民館分館などの耐震対策について【残念! 次回に】

① 尺土駅前整備事業の進み具合と今後の見通し

【質問と答弁】

- Q 道路を広げる工事の完成時期は?
- A 9月末完成見込みです。
- Q 街灯の工事は?
- A 道の工事が終わり次第、取りかかります。
- Q 尺土駅東の踏切すぐ南の電信柱の撤去は?
- A 持ち主の会社との話し合いはすでに終わって、今年度(平成31年3月)中の予定です。
- Q 工事の変更や延期の情報が十分ではありません。工事の進み具合を、市民にわかりやすくホームページでお知らせしてみても?
- A 今までも通行止め予告はお知らせしていましたが、今後は、それ以外にも情報の開示ができるものはホームページなどでお知らせするよう検討します。



② 道の駅の市民目線での活用

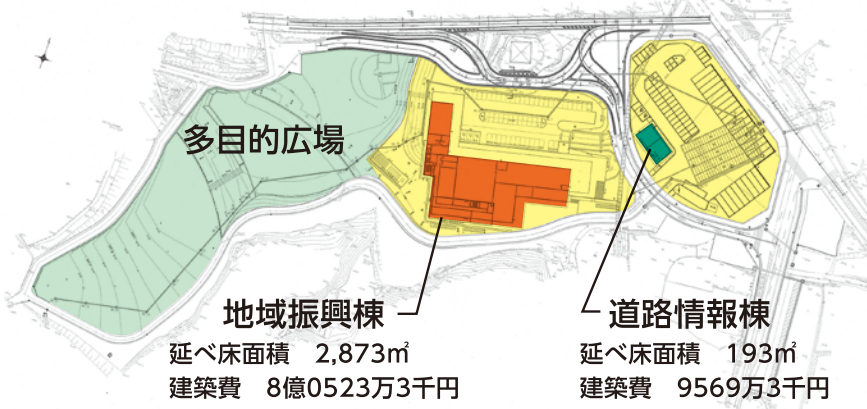
【質問と答弁】

- Q 「道の駅ふたかみパーク當麻(以下、當麻)」と、「道の駅かつらぎ(以下、かつらぎ)」。
- 二つの道の駅の違いは?
- A 「當麻」は、地域の農産物を活用する「農畜産物加工処理施設」と、ふるさと公園とが合わさって道の駅としてオープンしたものです。
- 「かつらぎ」の目的は①市民の働く場所づくり、②食のレベルアップと特産品づくり、③市民の安全・安心を支える、④観光情報、地場産品などの発信の四つです。
- Q すでに「當麻」があるのに、新しく「かつらぎ」をつくった意義は?
- A 互いに協力しあい、相乗効果を生み出しています。これまで以上に多様な交流が生まれています。

★ 「かつらぎ」の面積と、つくるのにかったお金は次のとおり。

道の駅かつらぎ 全部でかったお金 29億3500万円
全体面積 33,000㎡ (うち国からの交付金は、11億2200万円)
(平成29年度末現在)

市は、約13億円を「合併特例債」として借金しています。うち約9億円を国が「交付税」として負担するので、市民の直接の負担は約9億円になります。



Q 市は、株式会社道の駅葛城に経営と管理をお願いしていますね？

「かつらぎ」の1年間(平成29年度決算)の売上は？	約8億9500万円
農産物などの仕入代を支払った残りの粗利益は？	約2億3700万円
給料や光熱費などを支払って残った営業利益は？	約3600万円
税金(法人税、住民税及び事業税)の支払いは？	約152万円
市民は何人働いていて、給料は全員でいくら？	市民は40名、給料は全員で約6100万円
市内から出荷されている農家は何人？	250名ほど。仕入れ金額は約1億1000万円
地元産の割合は？	現在、47パーセント。もっと増やすよう努力中

Q 一般市民にとってのメリットは？

A 地元産の農産物を安全、安心して味わってもらえることです。

Q 将来、ドッグランをつくったりすることはできますか？

A 道の駅には、休憩や道路・観光情報の提供などの役割が与えられています。多目的広場にイベントで犬などのペットが自由に遊べる場所をもうけるのはOKです。管理会社とも相談して、皆さんに喜んでもらえるように知恵を絞っていききたいと思います。



Q 「かつらぎ」については、建設前に反対の声が多くあり、反対署名も集まりました。「かつらぎ」関係者の、オープン以来のご努力には敬意を表します。しかし、さらに広く市民に愛される施設となるには、まだ道半ばだと思います。

阿古市長 二つの道の駅の共存のためには、テコ入れが必要です。両施設をともに繁栄させなければなりません。葛城市に市外から、いかに人に来てもらうか、観光の視点からも考えているところです。

③ あらたな市政モニター制度の設置

私たち市民は選挙で、市民の代表である市長と市議会議員を民主的に選んでいます。

議会の役割の一つが行政の監視です。しかし葛城市議会15議員中、女性はたったの3人。二十代、三十代の若者もいません。外国籍市民は地方参政権がなく、投票で自分の意思を示せません。選挙のときだけではなく、市民が常に市政のことを知り、意見を言える場が必要だと考えます。



私は、葛城市誕生時に設けられた市政モニター制度（メンバーは30名）に参加できたおかげで葛城市の行政に興味を持ってました。あれから14年、いまはスマホの普及などネット環境が大きく変わっています。

【質問と答弁】

Q 市政モニター制度のような「市民参加型」の制度について、どのように考えますか？

A 市の事業に市民感覚を取り入れられると考えられます。しかし、時間の制限がある中で、より多くの効果があるとは言えない状況があります。

Q 現在、どのような方法で市民の声を聞いていますか？

A 電子メール、意見箱への投書、面会による対応など様々な選択肢を用意しています。担当課は、市民からの声への回答方針を、必要に応じて市長に相談しながら決めていて、時代に合った対応ができていると考えます。

Q 市民から多くある質問や要望、みんなで共有するのが望ましい意見などについては、ホームページで公開してはどうでしょうか？
また、給食センターなど公共施設の見学会があるとうれしい。

阿古市長 市民の意見には、丁寧に回答をする必要があります。現在、大字ごとに要望を取りまとめていますが、直接市民の声をうかがう機会も、来年度までには始めたいと考えています。施設見学については、前向きに検討します。



④ 市内の消火栓の点検

私は地元大字の自警団員として、消防用工具箱（ホースなどを納めた赤い箱）の点検に参加しています。その経験から、消火施設の点検方法や回数などについて、市の考えを聞きました。

市からは、葛城市消防署による定期点検をしっかりと行っているとの回答がありましたが、その後、複数の方から、今回の質問内容だけでは十分でないという声をいただきました。市民の安全のため、さらに設備面の充実も含めて調査研究を進めてまいります。

